

2014 年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム

渡航報告書

## 目次

1. 渡航者
2. プログラム日程
3. 渡航者の報告

## 1. 渡航者

山崎 圭子 講師（家族・生殖看護学研究室）

海老原 樹恵 助教（精神看護学研究室）

其田 貴美枝 助教（在宅看護学研究室）

中澤 千佳（大森学事部学事課）

## 2. プログラム日程

日期	时间	内容	备注
8月1日 金曜日	20:20	MU5527/Y 21:00 到达洛阳	友谊宾馆 宿泊
8月2日 土曜日	07:00-07:40	朝食(友谊宾馆)	
	08:30-10:00	新区病院、开元キャンパスを見学	田豊豊先生がご一緒
	10:00-11:50	洛陽博物館見学	
	12:00-13:00	昼食(病院レストラン)	王朝娟 赵杰刚 田豊豊
	13:00-14:30	山崎先生「日本の出産と産後うつ病の現状と課題」	肿瘤中心3階 赵杰刚通訳
	14:30-16:00	海老原先生「日本における精神科リハビリテーション —子どもと若者を中心に—」	田先生通訳
	16:10-17:40	其田先生「日本における在宅看護」	赵杰刚通訳
	18:30-20:00	歓迎会(新友谊大酒店)	冯院长 田院长 高院长、牛牧青 王朝娟 赵杰刚 日4名、英2名
8月3日 日曜日	07:30-08:30	朝食(友谊宾馆)	
	09:00-16:00	龙门石窟、关帝庙、白马寺观光 昼食：随机	日本語ガイド 魏先生
	18:30-19:30	晚餐(新区レストラン)、その後:噴水見学	赵杰刚
8月4日 月曜日	07:30-08:30	朝食(友谊宾馆)	
	09:30-11:30	护理教学座谈会(肿瘤中心 小会议室) 中澤さん「事務職員として関わる東邦大学の看護教育」 質疑応答と話し合い	赵杰刚通訳
	12:00-13:00	昼食(老洛陽面館)	王朝娟、赵杰刚
	15:00-17:00	自由活动	赵杰刚翻译
	18:30-20:00	歓送会(新友谊大酒店)	王书记、王院长、王朝娟 赵杰刚、日方4人
8月5日 火曜日	07:30-08:00	朝食(面点王)	赵杰刚
	08:30	洛阳空港へ MU5390/Y 10:00 上海ゆき	赵杰刚

### 3. 渡航者の報告

2014 年度河南科技大学国際交流プログラムに参加して

家族・生殖看護学 山崎圭子

2014 年 8 月 1 日～8 月 5 日の日程で、河南科技大学を訪問しました。今回の国際交流プログラムの目的は、河南科技大学看護学部との交流と第 12 回護理管理论坛（護理＝看護）での講演でした。羽田空港から上海（虹橋）空港までは約 2 時間という国内旅行並みのフライトでしたが、上海から洛陽（Luo Yang）への乗り継ぎ便が少ないため 7 時間の待ち時間があり、さらに 2 時間の遅延が重なり到着したのは午前 0 時を過ぎていました。

河南科技大学のある洛陽市は、悠久の歴史を持つ古都で、歴史や石仏の愛好家にとっては憧れの地です（写真 1）。また、シルクロードの起点でもあり、喜多郎の「シルクロード」のメロディーが浮かぶ方も多いでしょう。ところが、実際に訪れてみると、高層マンションが摩天楼のようにそそり立ち、ベンツや BMW などの高級車が走り、世界第 2 位の経済大国である中国の勢いを感じる人口 700 万人の大都市でした。



写真 1

【8 月 2 日】

2 日目の午前中は、新区の河南科技大学第一附属病院を見学しました。この病院では、看護教育機関を卒業し、看護師免許を取ったばかりの方がボランティアとして働いていました。仕事の内容は、日本の病院のボランティアと同様で、外来患者さんの診療の案内や、移動の手伝いなどでした。このシステムの病院側のメリットは、1 年間の仕事ぶりを見て優秀な人材を採用することができることです。また、ボランティア側にもメリットがあり、病院の仕事の一端を担うことで臨床感覚を身に付けることができるだけでなく、倍率の高い採用試験に合格するために自分の能力を病院側にアピールすることができるという利点があります。それぐらい第一附属病院に就職することは難しく、憧れの就職先の様で、目標に向かって頑張っている彼女たちは生き生きと輝いていました。

この日の午後は、第 12 回護理管理论坛で講演（一人 90 分）をしました。私は、「日本の出産と産後うつ病の現状と課題」というテーマで、わが国が晩婚化・晩産化に伴い、産後うつ病のリスクの高い母親が増えていることや、その対策について講演しました。冒頭の自己紹介で、8 月 2 日（講演当日）が私の誕生日であることをお話したところ、この会に参加された河南省の看護



写真 2

師さんたち（約 250 人）から、「おめでとう！」と大きな拍手とともにお祝い声をかけていただき、中国で誕生日を祝っていただくという貴重な経験ができました。また、趙傑剛先生の的確な通訳のお陰で、私が日頃から助産師として大切にしていることを、言葉の壁を感じることなく伝えることができました（写真 2）。

ここ数年、中国でも出産年齢が上昇しているようで、中国の病棟管理職の皆さんは、高年出産後のスタッフの産後うつ病に関心を持っておられました。実際に、中国の女性が日本で不妊治療を受けるために来日するケースも年々増えています。不妊治療でうつ状態になった女性は、産後うつ病の発症率が高いといわれていることから、中国でも産後うつ病への早期発見・早期対応が課題となる日も近いかもしれません。

また、中国の出産事情について伺ったところ、中国の女性は陣痛の痛みを強く恐れており、経済的にゆとりがあれば帝王切開を希望するため、帝王切開率が約50%と高いのが実態のようです。出産施設は公立の病院とプライベートホスピタルのいずれかを選択でき、公立病院の分娩費用は日本円に換算すると約20万円なのに対し、プライベートホスピタルは2倍以上の費用がかかりますが人気があるようです。洛陽市の中心部にも大規模なプライベートホスピタルがありました。

【8月3日】

3日目は、洛陽の史跡をめぐる観光をさせていただきました(写真3)。外気温が40℃とこれまで経験したことのない気温でしたが、湿度が低いためか日陰を歩けば、どうにか屋外で過ごすことが出来ました。道路沿いにある電光掲示板や天気予報では38℃未満の数値が表示されていることが多く、実際の気温よりも低く表示されていました。洛陽では38℃以上になると労働者は働かなくてもよい権利が認められているらしく、このことが関係しているのかわかりませんが、必ずしも正確な数値ではないようです。



写真3

【8月4日】

4日目は、河南科技大学看護学部の皆さんと交流に参加しました。王朝娟看護学部長をはじめ10月に来日予定の賀志勇書記、看護学部の教員、授業を担当している病棟師長らが一堂に会し、2時間にわたり意見交換をしました。中澤さんから本学の理念・教育等に関するプレゼンテーションの後、日本の助産および看護基礎教育に関することや昨日の護理学会の講演内容に関する質疑応答などについて話し合いをしました。参加者の中には、本学での研修で得た情報を基に糖尿病患者の退院指導の強化を図り、看護の質の向上に貢献されている方もおり、本学との交流が中国の地で役立っていることを知り、とても嬉しく、そして今後も共に成長していくことの大切さを実感しました。

【8月5日】

最終日は、王書記書記と5年前に本学に研修にいらした看護師長さんが、出勤前にホテルに立ち寄ってくださり、お忙しい中私たちの見送りをして下さいました。そのお心遣いに胸が熱くなりました。短い期間でしたが、滞在中は折に触れ“国は違っても看護は一緒。これからも交流を続けていきましょう！”というメッセージを頂き、私たちがこの経験を活かして実現されていかなければならないと実感しました。10月に来日される際には、今度は私たちが「お・も・て・な・し」

で出迎え、少しでも多くの学びができるような研修環境を提供したいと思います。

## 2014年度 河南科技大学 国際交流 報告

精神看護学研究室 海老原樹恵

8月1日から5日までの4日間、本学と大学間交流が図られている河南科技大学へ研修に行く機会を頂いた。中国を訪れるのは初めてであり、河南科技大学がある洛陽は歴史的都市であることは知っていたものの、実際に訪れてみて、現地の方の生活や文化のなかに非常に深く刻まれた歴史があることを体感できた研修であった。

今回の研修では、河南省における看護関連の研修会で「日本における精神科リハビリテーション-子どもと若者を中心に-」というテーマでの講演をさせていただいた。

日本では、精神疾患を持つ患者が多いこと、欧米諸国では、すでに精神疾患の治療の場が入院から地域へ移行しているにも拘らず、日本ではまだ長期入院から脱せられないでいる現状を報告した。

さらにその中で、子どもや若者のメンタルヘルスの問題が大きくなっている点を取り上げ、児童精神科の治療方略や専門家の不足、社会的理解の不足の中にあっても、少しずつ変革を起こし、成果を上げているいくつかの取り組みを紹介させていただいた。

これについては、後日の意見交流会の際に、史師長から中国の現状とご質問を頂き、日中に関わりなく、子どもが健康で安心して成長してゆける社会と看護のあり方を、日中だけでなく、国境を越えて一緒に取り組む課題として再認識できたことは、私にとっても大きな収穫となった。

また、私が研究的な関心をもっている看護師のメンタルヘルス支援についても伺う事ができた。河南科技大学は本学と同様に、大学病院として高度医療や難治疾患への治療などを担っている中国屈指の大学である。このような危機的な状況にある患者さんと同様に、日常的に患者さんと体験をともにし、支えとなるケアを実践しなければならない看護師の精神的負担は非常に大きいことは、両大学に共通するスタッフ支援の課題であると考えた。

日本でもまだまだ十分に取組みされていないこの課題について、王書記（写真左から3人目）がおっしゃっていたスタッフ支援において大事として、その人の話をよく聴くこと、その人を認めること、仕事への意欲を失わないようにすること、そしてその人の家族をも大事にすることだそうので、今後の私の研究教育、多くの同僚とともに働く臨床家としても大きなヒントを頂いた。

研修にあたり、通訳の田豊豊先生、王朝媚先生、また多くの河南科技大学の方々にお礼を申し上げます。研修中の滞在全般に渡って細やかなお心遣いをいただき、円滑に役割を果たすことができ、中国の文化の深淵や中国の方々の活気や寛大さに触れることできた。

また、本国際交流委員会、精神看護学研究室、並びに学事課の方々にもお礼申し上げます。末筆になったが、滞在中の一切の不安を感じるこ



なく過ごすことができたのは、趙杰剛先生のお力添えの賜物である。感謝を申し上げる。

#### 河南科技大学での国際交流報告

在宅看護学研究室 其田貴美枝

2014年8月1日～5日までの5日間、中国河南省洛陽市にある河南科技大学との国際交流に参加しました。その主な内容は、河南科技大学キャンパス、河南科技大学新区第一病院、神経研究所の見学、看護管理学会での講演、看護教育に関する意見交換会でした。以下、交流内容を報告します。

河南科技大学新区第一病院に併設されている神経研究所の見学では、田豊豊医師に案内していただきました。田医師は、岡山大学大学院を修了し、神経研究所へ戻られました。神経研究所に入ると研究員の方が6名ほどおり挨拶をしてくれました。チームで研究を進めている様子が伺えました。田医師の研究は、日本でも表彰されており、中国へ戻って研究活動を再開することによって、中国の神経研究が今後益々活発になるだろうと思いました。国際交流は、両国の研究を発展させていく力になることを改めて実感しました。

河南科技大学新区第一病院の外来見学では、看護師国家試験を終えたボランティアの方が案内をしてくれました。行く先々で職員がボランティアの方に気軽に話しかけていたのが印象的でした。就職前に院内ボランティア活動をすることによって、職員との交流が深まって、就職後の仕事が円滑に始められると思いました。

看護管理学会に参加して、「日本の在宅看護」と題して90分の講演をしました。はじめに、1970年代に人工呼吸器を装着し在宅療養をした神経難病療養者の生活の様子を紹介しました。この症例は、日本で初めて人工呼吸器を装着し自宅で生活をした方です。人工呼吸器を装着すると、退院できない、入院生活をするしかないと思われていた時代でした。看護師、保健師、往診医、専門医らは、療養者の情報を共有し、専門職が各々の役割を果たしながら支援ネットワークを構築しました。看護師は、健康状態をアセスメントし在宅医療が適切に提供されるように支援をしました。さらに、人工呼吸器の購入費用など病気の特徴と人工呼吸器の必要性を社会に訴え、必要な資源を得る、創るといった努力を惜しみませんでした。在宅看護の活動は、ひとり一人の看護に留まらず、療養者に必要な社会資源を創造するといった活動を含みます。フロアーから、中国ではまだ人工呼吸器を装着して家で生活する人はいないと言った返答がありました。土地の広さや人口の多さは、日本とは大きく異なります。いつか中国らしい在宅看護が展開される日があるのではないかと考えています。

河南科技大学看護学部の教職員と看護教育に関する意見交換をしました。河南科技大学看護学部の教員は、病棟で看護師として勤務しながら看護教育を行っていると聞いて、実践と教育が近い環境にあると思いました。在宅看護は、療養者の多様な生活に合わせた看護実践が求められます。この意見交換を通して、実践の機会を持って教育に反映していきたいと痛感しました。

趙先生、王看護部長他、皆様に温かく迎えていただきました。感謝の気持ちを持って、今後も国際交流活動に関わっていきたいと思います。

## 国際交流委員会

委員長	近藤 麻理
副委員長	松永 佳子
委員	市山 陽子
	富岡 由美
	佐山 理絵
	天野 里奈
	東 園子
	中澤 千佳
	柴原 文

---

2014 年度 東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院  
国際学術交流プログラム 渡航報告書

発行日 2015 年 3 月  
発行 東邦大学看護学部看護学科 国際交流センター委員会  
〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20  
TEL 03 (3762) 9881

---